



## 関越道事故から 10 年 **バス業界で発生した事故の教訓を忘れない**

被害にあわれた方々のご家族の苦しみを胸に刻み、加害事業者の意識や事故の背後要因から学んだ教訓を活かし、真の事故再発防止策を考えよう！



2012年4月29日早朝、群馬県藤岡市の関越自動車道で45人の乗客を乗せた高速ツアーバスが猛スピードのまま防音壁に突っ込み、乗客7名が死亡・乗員乗客39名が重軽傷を負った事故から10年が経ちました。国は社会を震撼させたこの事故を契機に、2002年の規制緩和で急増した「高速ツアーバス」を廃止し、安全基準を見直した「新高速乗合バス」への集約を行いました。私たちは同じバス業界で

働く労働者の責務としてこのような事故を二度と起こさないために、働く者とお客様の「いのち」を第一に、運行優先・利益優先ではなく「安全最優先」の企業風土とバス業界の再確立を目指して職場からの議論を高めてきました。しかしその体質は未だに蔓延り、2016年には乗員・乗客15名が死亡し、生存者も全員が重軽傷を負う「軽井沢スキーバス転落事故」が発生するなど、事故の根本的な根絶のためには様々な背後要因に対する対策が遅れているのが現実です。

### ジェイアールバス関東労働組合は、5月に「関越道事故踏査」をおこないます

4月23日に発生した北海道知床観光船の事故では今もなお多くの方々の安否がとれておらず、亡くなられた方やご家族の心中は凶り知れません。亡くなられた方々のご冥福を心からお祈りしますとともに、行方不明の方々が一刻も早く戻られることを願います。

事故の原因や背後要因がマスコミ等で様々報道されていますが、そのような現実と同じ交通機関で働く者として、未然にリスクを指摘しても問題視されず、「事故」が発生してはじめて「対策」を法令・社内ルール等で強化し、その教訓が「風化」や法の網をすり抜けて同様の事故が繰り返し発生する交通機関における歴史を私たちは直視していかなくてはなりません。

ジェイアールバス関東では春輸送を境に徐々にお客様の利用が増加してきました。会社はコロナ禍での赤字経営から黒字経営を目指し、人材流出で減少した社員数での「生産性向上」、そしてGW輸送を「未来ビジョンに向けた試金石」として位置付け「最大限の要員確保」を目指しています。

ジェイアールバス関東労働組合は、労働協約・改善基準告示等の法令、そしてこれまで社内外で発生した事故を教訓として労使議論を高めてきた安全対策を遵守し、「安全最優先」を徹底した最繁忙期輸送完遂を目指します。

**最繁忙期のGW輸送無事故完遂と共に  
安全最優先の企業風土再構築に向けた  
職場での安全議論を更に高めよう！**